

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2017

「美しく生きる ～大学は知の宝庫～」

第6回 12/14 (木) 13:30～15:00 報告

ハンガリー音楽 ～リストからバルトークへ～

講師 菅野道雄 (本学教授)

於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*

平成 29 年度最後の第 6 回公開講座 (受講者 89 名) が 12 月 14 日に開催されました。子ども発達学科教授の菅野道雄先生による「ハンガリー音楽 ～リストからバルトークへ～」と題された講演は、ハンガリーの美しい音楽について、リスト・フェレンツ (1811-1886)、バルトーク・ベラ (1881-1945)、コダーイ・ゾルターン (1882-1967) の音源を交えながら紹介されました。

最初に、誰もが聴いたことのあるブラームスの「ハンガリー舞曲第 5 番」のピアノの二重奏が、私たちをクラシック音楽の世界に導きました。世界的なピアニストであるケヴィン・ケナー氏と菅野雅紀氏 (菅野先生のご子息) のお 2 人の息の合った連弾の映像が流れ、会場はその美しく変化に富んだ旋律に親しみました。

ハンガリー音楽は、19 世紀には、ロマという移動型の生活をおくる少数民族のジプシー音楽と混同されてきました。ハンガリー音楽を代表するリスト・フェレンツの「ハンガリー狂詩曲集」にも、ブラームスの「ハンガリー舞曲」と同様の、この混同がみられます。

それを修正し、正しいハンガリー音楽を発見したのがコダーイとバルトークでした。バルトーク・ベラの「子どものために第 1 巻」は、実際のハンガリーのわらべ歌によって子どものために作られた曲だそうです。子どもでも楽しくピアノを弾けるようなやさしいリズム感ではじまります。また「ハンガリアン・スケッチ」は、適度な哀愁や重厚感で会場を包んだかと思うと、ノスタルジックに打楽器が響き、宝石を散りばめたような軽快なテンポがつづくなど、リズム型の変化を堪能することができました。

コダーイ・ゾルターンの組曲「ハーリ・ヤーノシュ」は、ハンガリーの詩人ガライ・ヤーノシュの作品「Az obsitos」に登場する「ほら吹き男爵」と言われる人物です。この物語をもとに劇場版音楽を作曲し、その中から選曲した 6 曲で構成されています。最初に、ほら吹きとして知られる男が、「ハークッション」とくしゃみをします。ほら吹きですが、くしゃみをするのは「本当の話」であると意味することとされていました。このくしゃみの音～前奏曲～からはじまり、ハンガリーの素朴な風景、民族楽器ツィンバロム等の伴奏に乗ったコミカルなテンポ、ナポレオンと向かい合う勇ましい局面、勝者の高貴で華やかな凱旋の場面など、6 曲からさまざまな場面が思い浮かび出されました。

最後に、再度リストの「ハンガリー狂詩曲第 2 番」のユーモアに溢れたピアノ連弾のパフォーマンス映像が流され、私たちとハンガリー音楽との距離をぐっと縮めました。

今年度公開講座最終回は、学外の方の他、就業力関連授業の受講学生の参加もありました。会場の皆さんとハンガリーの美しい風景を見ながら、ハンガリー音楽のリスト、バルトーク、コダーイの美しい旋律に浸り、公開講座共通のテーマ「美しく生きる ～大学は知の宝庫～」にぴったりなひと時を愉しむことができました。

【講座の様子】

